市民タイムス　令和６年（2024年）４月１１日

深志生の心意気学ぶ

新入生 伝統の応援練習

松本深志高校で10日、新入生の「通過儀礼」とも言われる伝統の応援練習があった。3日間の日程の最終日で、応援団管理委員会（応管）の2、3年生6人が厳しくも熱く指導し、1年生321人が大きな歌声と真剣なまなざしで応えた。

屋上に集い、学ランと学帽、マントを身にまとい高げたを履いた団長の3年・村田七穂（ななほ）さん（17）と副団長の牧平幸太朗さん（17）が指揮を執った。1年生は緊張した表情で背筋を伸ばし、覚えた11曲から「自治を叫びて」や校歌などを歌った。手の振りや声がそろわないと2年生が「真の深志生になるために全力を出せ！」と喝を入れた。

歴史ある応援練習は、古くから受け継ぐスタイルと時代に合わせた配慮がある。牧平副団長は「厳しさを乗り越えた先には団結力が生まれ高校生活が有意義になる。一方で萎縮しないよう指導を工夫し、自主的に応援したい思いを持ってもらう」と話す。近隣町会に練習の音出しを承知してもらう通知も出している。

練習の最後に村田団長は新入生の頑張りをたたえ「この先つらいことがあっても仲間と乗り越えた経験を基に大きなとんぼになってほしい」と呼びかけた。

（田中千絵）

伝統の応援練習に臨む応管と新入生